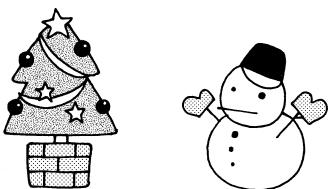


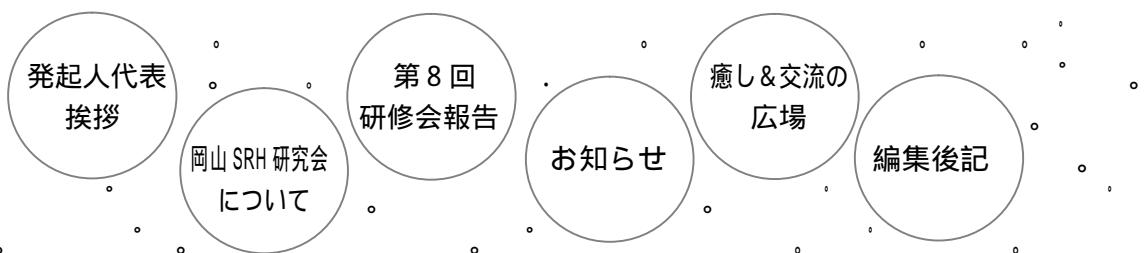
岡山SRH研究会



会報誌 ~第1号~

平成17年12月26日(月)
岡山SRH研究会 運営委員会

このたび、岡山SRH研究会では、会報誌が発行されることとなりました。
第1号では、主にSRHの活動等を知って頂けるような場を設けてあります。
周りの方々にも、この会報誌を通じて、SRHを紹介して頂けたらと思います。



発起人代表挨拶

岡山SRH(セクシュアル アンド リプロダクティブヘルス)研究会
発起人 岡山市保健所 中瀬克己

当会は岡山でセクシュアル アンド リプロダクティブヘルスの取り組みを広げるため交流の場を作ろう、ということで昨年始まりました。幸い岡山では、エイズ・性感染症の啓発に取り組む市民ボランティア(A2)、医療関係者の団体(岡山HIV診療ネットワーク、岡山STD研究会など)、教育関係者の団体(岡山性教育協議会など)、エイズ関連NGO(HIVと人権・情報センター 岡山支部)など多くの取り組みがある地域です。その中にあって当会は、医療保健の専門的知識を持つ者がその力を予防の分野に生かすことで、若者や市民により身近な形で、セクシュアル アンド リプロダクティブヘルスを進めようとしています。当会会員は思春期保健相談士の資格を持つ助産師、保健師、看護師、養護教諭などが中心となっており、若者が相談したり、学んだりする機会を作るところから活動を広げてゆきたいと思っています。また、そのためにセクシュアル アンド リプロダクティブヘルスという観点から、学び、相互に交流する場も持ってゆきたいと考えています。これらの活動は既に行っていますが、幸い今まで以上に活動を進めてゆくことができる体制となりましたので、改めて会報誌を発行し、交流や意見交換、情報発信の場とさせて頂きたいと考えております。会員の皆様方の積極的なご意見をお待ちしております。

岡山SRH研究会とは・・・

岡山SRH研究会は平成16年3月に、当時の岡山大学医学部保健学科の奥田博之教授、小野清美教授、岡山市保健所の中瀬克己所長、県内で性教育を始め思春期保健に関わっていた上村茂仁医師、岡山大学医学部保健学科の下島要子さんを発起人として立ち上りました。SRHとは「Sexual and Reproductive Health」の頭文字をとったものです。

もともと、県内では多くの人がSexual and Reproductive Healthに関わり、それぞれに活動を行っていました。それぞれの力をまとめてひとつの大きな柱を作り、その力を必要な人たちに提供していくために発足しました。具体的に言うと、会員間での連絡をとりやすくし、それぞれの教育・相談活動がより一層効果的に、且つスムーズに行われることを目標にしています。また会員が、日々の仕事や活動の中で役に立つ知識を深めたり、教育や相談の技術を向上したりするための研修会を開いています。現在の会員は学校関係者、医療従事者、学生、主婦など職業に関わらず、Sexual and Reproductive Healthに関わる人たちです。平成17年12月現在で会員数は約110名です。決して大きいとは言えない研究会ですが、やる気のある会員が集まっています。

これまでの研修会

	開催日時	会場	講演	会員報告等
第3回	平成16年9月12日(日) 午後2時～午後4時	NTTクレドビル 8階 小会議室	「実習を通じて学ぶ相談の姿勢」 講師 中島弘徳氏(臨床心理士)	・セクシャルヘルスセンターについて(SHCの立ち上げの意義・目標など) ・今後のSRH研究会の活動の拠点について…「ウィメンズクリニック・かみむら」とする
第4回	平成16年11月28日(日) 午後2時～午後4時	岡山国際交流センター	「岡山県における若者の性の現状」 講師 上村茂仁氏(産婦人科医師)	・セクシャルヘルスセンターについて(活動内容の案など) ・ウィズセンターとの協力事業について ・岡山県母性衛生学会発表について
第5回	平成17年1月30日(日) 午後2時～午後4時	岡山シティホテル	「あなたにもできる動機付け面接」 講師 中瀬克己氏(岡山市保健所長)	・日本エイズ学会参加報告 ・セクシャルヘルスセンターについて(立ち上げの進行状況と今後の活動など) ・10代女性の無料検査の報告 ・実施している性教育活動の報告
第6回	平成17年3月12日(土) 午後4時～7時30分	岡山国際交流センター	～エキスパートに学ぶ今の性教育～ 「低用量ピルって？」 講師 ウィメンズクリニック・かみむら 院長 上村茂仁氏 「思春期教育におけるネットワークの重要性：赤ちゃんふれあい体験事業の立ち上げを例に」 講師 岩手県立大船渡病院 産婦人科長 秋元義弘氏 「私のおこなう性教育」 講師 (社)地域医療振興協会ヘルスプロモーション研究センターセンター長 岩室紳也氏	
第7回	平成17年7月30日(日) 午後2時～午後4時	岡山国際交流センター	「AIDS告知患者からのメッセージ」	・第1回中・四国思春期学会 ・第7回アジア・太平洋エイズ国際会議 ・岡山HIV診療ネットワーク ・性教育の実際 その ・今後の活動について ・運営委員の募集について
第8回	平成17年11月27日(日) 午後1時～午後4時	岡山ビジネスホテルアネックス	「知っていますか？“DV(女性への暴力)”」 講師 特定非営利活動法人 さんかくナビ理事長 貝原己代子氏	・世界エイズデー・岡山市の催し ・日本思春期学会 ・指導者のための避妊と性感染症予防セミナー ・岡山県母性衛生学会 ・今後の活動について(名簿、会報誌、パンフ紹介制度について)

第1～2回は、会則・運営委員会・役員選出など運営方針について、また会の活動内容について、発起人などによるミーティングが行われました。

第8回研修会報告

11月27日(日)に行われた、第8回研修会も、大変充実した、学び得ることの多い会となりました。アンケートの記入にもご協力頂き、ありがとうございました。今回お寄せ頂いた貴重なご意見、ご感想は、今後の研修会やSRH研究会の運営の更なる発展のため、参考とさせて頂きます。以下、ご記入頂いた内容を掲載させて頂きます。

- DVについての知識はあったが、デートDVについては新しい情報を得る事ができ、特に高校生のデータは興味を持てた。これからの活動に活かしていきたい。
- デートDVについて高校生の男子には非情報・知識を提供していきたい。
- 高校生の彼、彼女の関係の中で、デートDVについて相談を受け十分な解答が出来ず悔しい思いがあった。今回のデートDVの実情と課題はとても参考になった。上記の学生はまだ存在しているので今後も見守っていきたい。
- DVはいま表面に現れることより、数もふかさも表れていない現状ではないかと思う。教育の中に考える場を持つことの大切さを感じた。
- 夫婦間やカップルの間でちょっとした(暴力とまではいかなくとも)喧嘩、それに伴う暴言は多くケースとしてあると思う。お互いの思いやりが大切だと思う。
- DVは難しい問題が沢山あり、問題解決には時間がかかると思う。岡山SHRとして加害男性(女性)を作らないような教育プログラムが出来れば良いと思います。被害者に対しての取り組も学習していきたい。
- 学校現場や医療現場での具体的な事例が話に出て、大変驚き、衝撃を受けた勉強会だった。
- DVについては岡山市のDVサポートセンターで研修会に参加している。男性サポーターの方もおられ非常に活発な学習が出来ている。今回この研修で得たものを周りにどのように伝えていくか、どう考えるか、またどう広めていくかと思っている。
- 今回のDVとも関連するが、性を捉えるときジェンダーの事は大きいと思う。今後はジェンダーに関する事を取り上げて欲しい。
- 女の子の相談は受けやすいが、自分が女性で、男の子の相談に乗って困ることがある。男の子についての勉強会を希望する。
- 次回は情報交換等をするということなど、吸収することが多いのではと期待している。
- 中学生の妹がいますが、会員の皆様が、どのように考えて勉強していくか、広めていくか、どういう思いを持たれているかという事が分かり、妹(受ける側)にもそれが伝えられたらいいな、いつかこの会に連れて来たいと思った。
- 連絡・報告・自己紹介等で、参加者のそれぞれの取り組みが分かって良かった。参加者同士の、色々な意見交換の時間もあれば良いと思った。

お知らせ

以前よりお知らせしておりました、セクシャルヘルスセンターのホームページが立ち上がりました。会員が様々な目的の教材として使用できる資料を載せていますので、ぜひご活用下さい。

ホームページは <http://www.std-shc.net/> でご覧になれます。

会員の登録について現在調査中です。まだ返信されていない方は至急ご返信ください。

次回の研修会について、ご案内の資料を今回の郵送で同封しております。たくさんの方々のご参加をお待ち申し上げております。

交流&癒しの広場

上村茂仁先生のコラム

性教育という言葉があります。性についての知識を教育的に教えてやろうということなのかもしれません、子供たちは教えられても、その知識を使って自分の行動を変化させようとは思いません。大人が教えてやろうと力めば力むほど空回りします。子供たち1人1人に対して同じ目線で語るように、教えるのではなくて、相談にのるように話さないと子供たちにはなかなか通じないよう思います。決して脅すのではなく、指導するのではなく、同じ人間としてみんなと話がしたい、そんな気持ちで接するようにしています。そして子供たちに生きる力を持ってもらう、性について考える知識を得てもらう。それが医師の行う性教育(性の会話)だと思います。私たち医師は今の子供たちの状況と正しい知識を示し、それに対する子供たちの質問にいつでも答えてあげる、そんな姿勢が大切だと思っています。助産師が行う性教育、教員が行う性教育やいろいろな立場の方がされる性教育はそれぞれの立場からやり方が違つて当たり前です。皆さんの最終目標は全ての子供たちが幸せで居れることであり、それを目指そうではありませんか。勝手な私個人の思いです。

コラムバトンリレー

第1走者 助産師・思春期保健相談士 内尾 京子 様

私と性教育・SRH研究会との出会いについてお話ししたいと思います。病院に勤務していた頃、子どもが可愛いと思えない若夫婦の出産や育児、自己中心的でコミュニケーション能力の乏しいキレる17歳など、色々な問題を目や耳にして寂しく悲しい思いをしました。これから夢をもって生きてもらいたい若者たちに、命や性の専門家である助産師の私にも何か出来ないだろうか?病院という1つの駆に留まらず動いてみようと決めました。そして「子育ては楽しい」「生きることがすばらしい」ということを少しでも伝えられたらという思いで病院を退職しました。今は県北の診療所で、妊娠、出産、子育てを支援しながら、命の大切さや子育ち親育ち、更年期の過ごし方など現場に出向き楽しくわかりやすくモットーに活動しています。そのような時SRH研究会との出会いがあり、誘っていただきました。もっともっと行政や地域がこれらのことと身近な問題として捉え、苦しんでいる親を支援し、国の大切さや子育ち親育ち、更年期の過ごし方など現場に出向き楽しくわかりやすくモットーに活動しています。そのような時SRH研究会との出会いがあり、誘っていただきました。もっともっと行政や地域がこれらのことと身近な問題として捉え、苦しんでいる親を支援し、国の大切さや子育ち親育ち、更年期の過ごし方など現場に出向き楽しくわかりやすくモットーに活動しています。その後もご指導お願いいたします。

編集後記

手探り状態でありながらも、岡山SRH研究会の会報誌第1号が、無事に発行されました。原稿の提供や、温かいご助言をして下さった方々の、ご協力があったからだと、心より感謝致しております。ありがとうございました。これからも、よりよい会報誌となるよう努めて参ります。どうか、小さなことでも結構ですので、会報誌の内容等についてご意見をお聞かせ下さい。よろしくお願い致します。

(岡山SRH研究会 運営委員 会報誌編集係)

ご意見・お問い合わせはこちらまで・・・

連絡先 ウィメンズクリニック・かみむら 岡山市本町4-18 FAX 086-803-5339